

前線に伴う大雨よる現地調査 (長崎県雲仙市)

令和3年8月13日に国道57号200k付近(小浜町大字雲仙)の山腹斜面より土石流が発生し、国道の通行止が発生した。豪雨時にはさらなる土石流の発生が予想されるため雲仙市より支援要請があったことから、TEC-Doctorを派遣し現地調査及び診断を実施した。

出席者:長崎大学大学院 蔣教授

● テックドクターによる調査

土石流の状況



調査状況



関係者へ説明



【所見】

- ・山の斜面形状、勾配等を考えたときに亀裂は、大規模な地滑りに繋がる可能性がある。また、亀裂方向からも大規模地滑りの一部分かもしれない。岩盤面より上の層で斜面が危険である。そのため、早急に山の継続的な動きについてデータ計測で確認必要がある。
- ・登頂部付近ある山にクラック・段差は進行性の確認を今後経過観察をしていく必要がある。
- ・新湯温泉の裏山崩壊箇所は残山が崩れて旅館まで影響がでる可能性は低いが、今後崩れる可能性もあることから、残山の斜面对策(法枠等)は早急にした方が良い。
- ・今回の大規模崩落は専門性が強いので、発生原因や2次被害発生の可能性等を考慮して、自治体や自衛隊、警察など横の連携を強化し、情報共有して技術的なサポート等をしていけばいいのではないかと思う。